



Agri Note

【アグリノート】

ハナエチゼン・コシヒカリ情報

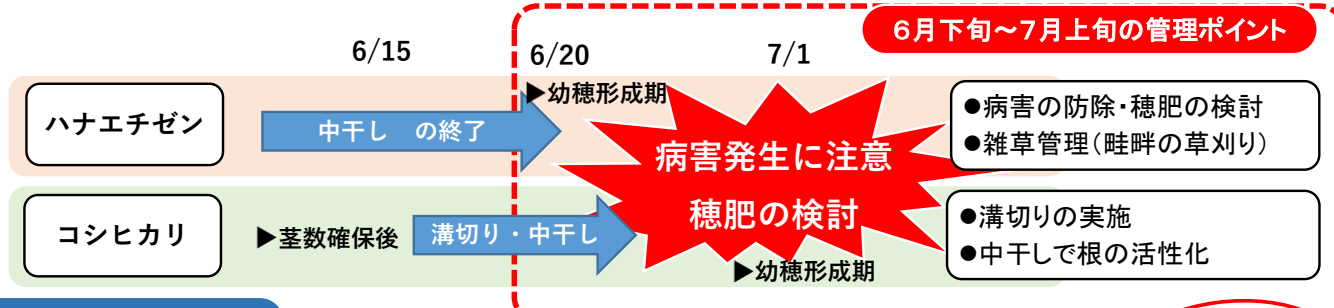


JA福井県

田植えが終わわり一息つけた方も多いかと思いますが、今年も気候に不安を感じるなか、水稻にとって重要な圃場管理の時期になります。梅雨時期になり、暑く湿度の高いじめじめしたなか、溝切り・中干し・雑草管理などのタイミングを迎えます。水稻の病害を防ぎ、満足した収量を得るためにも頑張りどころです。何のために行うかを知ること、ポイントを押さえた作業を心掛けてください。

これから夏を迎え、ますます暑くなります。適度な休憩とこまめな水分補給を忘れないでください。無理は禁物です。

6月下旬～7月上旬の管理ポイント



1. 溝切り・中干し

必要な茎数が確保されたら、過剰分げつを抑えるため、速やかに溝切り・中干しを実施しましょう。

①溝切り

- ◆ 3～5m間隔に1本、必ず排水路に接続
- ◆ 溝切りの深さは10cm以上の確保
- ◆ 溝切り後は2～3日水を落とし、溝形を保つ



②中干し

- ◆ 中干し開始前に1株の茎数を確認しましょう！
- ◆ 過剰分げつ(株のほこりすぎ)を抑え病気(いもち病・紋枯病)を防ぐ
- ◆ 発生したガスを抜くことで根腐れを防ぎ、根の活力を保つ
- ◆ 根を深くまで張らせ気候変動の影響を受けにくくする

ただし、『過剰な中干し』により田面に大きなヒビが入ってしまうと、張り巡らした根を切ることになり、昨今の猛暑で大きな問題となっている胴割粒・乳白粒の発生要因となります。



50株植の
コシヒカリでは、
18本が目安！

2. 雑草対策・畦畔の草刈り

カメムシの侵入を防ぐため、圃場内・圃場外(畦畔)の雑草処理を行いましょう。

- 圃場内: 雑草を抑えるために適した除草剤の選択と適期散布が重要です! 草の種類、水の状態、収穫前日数などを見極めましょう。また散布適期を逃さずタイミングよく防除をしましょう。
- 畦畔: 6月中の草刈りはカメムシ対策として殺虫剤散布に匹敵します。時期を合わせ集落ぐるみで徹底的に行うことは、カメムシの生息密度を減らし、出穂期に行うカメムシ防除の効果を格段に高めます。

● 県下一斉の畦畔草刈りデー

地域ぐるみの草刈りで斑点米
カメムシを減らしましょう。

- 1回目 6月20日(土)・21日(日)
- 2回目 7月4日(土)・5日(日)



3. 圃場の観察

①病害の予防

圃場を見回り、早めの予防剤散布を行いましょう。また前年発生した圃場では、菌核が越冬し発生が予測されますので対策を徹底しましょう。



- **いもち病 予防剤: オリゼメート**
梅雨時期あたりからは葉いもちの発病が始まり、穂いもちに進展します。
- **紋枯病 予防剤: リンバー**
近年増加傾向で株元から徐々に上部に伸展し、病気が進むと株が弱くなり、倒伏しやすくなります。

★ 防除や穂肥のお問合せは各支店センターの営農指導員までお願いします

②穂肥の検討

品種	1回目	幼穂長	2回目
ハナエチゼン	6月下旬	1～2mm	1回目の
コシヒカリ	7月中旬	10mm	10日後

分施の圃場では、穂肥の時期になります。一発圃場でも葉色が薄い、茎数が少ない場合は検討してください。また実施は必ず幼穂を確認して行いましょう！



今回のアグリノート田園は、丹南営農経済センター(米穀施設課) 北川が担当しました。